

科目名	血液学								
英文科目名	Hematology								
担当教員	瀧田悦子								
授業形態	講義								
学年	2年	クラス	1	開講学期	前期	単位区分	必	単位数	1
ディプロマポリシー	<ul style="list-style-type: none"> ・医療人としての倫理観と他者に対する思いやりをもち、責任をもって行動できる。 ・臨床検査技師として必要とされる基本的な知識・技術を修得し、活用できる。 ・患者や他の専門職と適切にコミュニケーションする能力をもち、チームの一員として協調して行動できる。 ・自らの専門分野での課題を見出し、解決に向けて行動できる。 								
授業の目的・到達目標	<p>血液は生体の維持にとってきわめて重要な役割を果たしており、その産生部位である骨髄を含めて「造血器」という1つの臓器として扱われている。血液検査は日常診療に必須の基本的検査であり、血液疾患だけでなく様々な疾患の病態解析、診断、治療効果判定、経過観察に欠かすことのできない重要な検査である。血液学の講義では、血液検査学を習得するために必要な基礎として、知識と理解力を身につける。</p> <p>【授業目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血液の成分や性状を理解し、その機能を理解する。 2. 各血球（赤血球・白血球・血小板）の正常形態と機能を習得し、その検査結果を評価する方法を身につける。 3. 止血機構、血液凝固抑制機構、線溶抑制機構を習得し、これらに関わる因子の検査法と診断における意義を理解する。 4. 疾患の診断や病態の把握における血液検査の意義・重要性を理解する。 5. 血液疾患の診断や経過観察に必要な検査について習得する。 <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. それぞれの血球が、どのように造られどういう機能を持っているかを説明できる。 2. 凝固・線溶系因子の種類と機能を理解し、臨床的意義を説明できる。 3. 貧血の鑑別診断における検査の進め方を説明できる。 4. 白血病の診断における検査の進め方を説明できる。 5. 出血傾向・血栓傾向をきたす主な疾患・病態の鑑別のために必要な検査を説明できる。 								
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液の基礎(1) : 血液の成分、血液の性状 2. 血液の基礎(2) : 血液の機能、血球の産生と崩壊 3. 血球(1) : 赤血球の産生、形態と機能 4. 血球(2) : 白血球の産生、形態と機能 5. 血球・止血機構 : 血小板の産生、形態と機能、止血機構 6. 凝固・線溶系 : 血液凝固、線維素溶解 7. 赤血球系疾患(1) : 基準範囲、形態の異常 8. 赤血球系疾患(2) : 貧血(1) 9. 赤血球系疾患(3) : 貧血(2) 10. 白血球系疾患(1) : 基準範囲、形態・機能異常、増加・減少症 11. 白血球系疾患(2) : 造血器腫瘍(1) 12. 白血球系疾患(3) : 造血器腫瘍(2) 13. 出血性素因(1) : 出血性素因とその検査法、血小板減少・機能異常・増加症 14. 出血性素因(2) : 凝固・線溶因子の異常、血管の異常 15. 血栓性素因(3) : 血栓症と検査、抗血栓療法 								
学習演題	<p>1回の授業に対する予習・復習時間は合計で1時間程度とする。</p> <p>講義に先立って、教科書の該当項目部分を読んで予習をしておくこと（各回30分）。</p> <p>講義で強調した範囲についてプリントや教科書を熟読し、知識の定着を図ること。</p> <p>第1～2回 予習：血液の基礎 教科書p1～16を読んでおく。復習：授業での重点事項の内容を整理してまとめる。</p> <p>第3回 予習：赤血球 教科書p17～33を読んでおく。復習：授業での重点事項の内容を整理してまとめる。</p> <p>第4回 予習：白血球 教科書p33～45を読んでおく。復習：授業での重点事項の内容を整理してまとめる。</p> <p>第5回</p>								

	<p>予習：血小板・止血機構 教科書 p46～54 を読んでおく。復習：授業での重点事項の内容を整理してまとめる。</p> <p>第6回</p> <p>予習：凝固・線溶系 教科書 p55～68 を読んでおく。復習：授業での重点事項の内容を整理してまとめる。</p> <p>第7～9回</p> <p>予習：赤血球系疾患 教科書 p207～237 を読んでおく。復習：授業での重点事項の内容を整理してまとめる。</p> <p>第10～12回</p> <p>予習：白血球系疾患 教科書 p238～275 を読んでおく。復習：授業での重点事項の内容を整理してまとめる。</p> <p>第13～14回</p> <p>予習：出血性素因 教科書 p68～70、p276～292 を読んでおく。復習：授業での重点事項の内容を整理してまとめる。</p> <p>第15回</p> <p>予習：血栓性素因 教科書 p70～72、p293～294 を読んでおく。復習：授業での重点事項の内容を整理してまとめる。</p>
授業方法	<p>スライドを使い教科書に沿った講義を行う。理解の補助として参考書とプリントを用いる。</p> <p>授業の中で確認問題を行い、理解度を確認する。</p> <p>小テストを行い、理解度を評価する。次回の講義で小テストについて内容を解説してフィードバックを行う。</p> <p>各回の進行度により若干前後することがある。</p>
成績評価の基準	<p>授業態度と定期試験で総合点100% (100点)。追再試の場合は授業態度を含め60% (60点) とする。</p> <p>授業態度不良の場合は10点/総合評価100点の減点とする。</p>
教科書	ISBN978-4-263-22361-1：最新臨床検査学講座「血液検査学」、奈良信雄ほか、医歯薬出版、2016
参考書	ISBN978-4-89632-652-9：病気が見える vol.5 血液第2版、医療情報科学研究所、メディックメディア、2017
実務経験のある教員による授業	
実務経験の内容	-
実務経験の当該科目への活用	-